

評価項目 目標	具体的な方策	成果と課題 【各部の反省や進捗状況】	自己評価		次年度以降の改善策	学校関係者評価		
			項目別	総合		評価		コメント
						項目別	総合	
Ⅰ 学力向上 ①3年間を見通した南高スタイルによる教科指導の充実 ・各学年に応じたきめ細かな指導体制の確立 ・授業充実と放課後活用での個に応じた指導充実	■55分授業 ・放課後の有効活用 ・職員研修の充実 ■シラバス・学習評価方法 ・適切な評価 ■自然学級（1年生）アドバンスクラス新設 ■南模試（1・2年生 9月・1月） ■放課後セミナー（3年生） ■先進校視察 ■各種通信（部・学年・教科） ■次年度教育課程の検討 ・R7共通テストの「情報Ⅰ」対応	・総合型選抜対策においては7月より早期指導を開始していただいた。 ・55分授業7年目になり、単位数の問題など再考する時期にきている。 ・観点別評価1期生ということもあってか、評定平均値が相対的に低い傾向にある。 ・評定の算出法や内規改定の検討が必要 ・担任、学年主任の強力なけん引で1年目としては良いスタートを切れている。 ・選抜1クラスの検証も行わないと行けない。 ・各教科、共通テスト、個別学力試験を意識した工夫された問題作成をして下さっている。 ・受講生の減少、受講率の低さが気がかりである。 ・進路通信を紙、WEBで定期的に発行し、進路意識の高揚を図っている。 ・宮崎大学も点数を引き下げてるなど、現状の対策で十分だと思われる。	3. 3		・指導の進捗状況についても適宜把握に努める。 ・管理職より全職員への案内があったので期待が持てる。 ・上位層対策の登録状況を見ても一体感が見られる。 ・模試問題を是非多く解いてもらい、作問力を上げていきたい。 ・実施内容の提示を行うなど魅力化に努める。 ・入試等に関する情報、意識付けをこまめに行う。 ・初年度であったが2年次からの指導の効果が出た。	3. 1		・概ね取り組み内容は問題ないと感じたが、3年生向けの放課後セミナーの自己評価が低い点が気になる。放課後ということで、学習塾を重要視している学生さんもおられるかと思う。学校側が考える対象となる受講者像を明確にして、その対象となるであろう学生およびその保護者に対して、その趣旨が伝わるような工夫が必要だと思う。 ・全般的には、先進的な55分授業やアドバンスクラスの設置などのすばらしい取り組みがみられる。 ・観点別評価を実施すれば。本来は評定が底上げできるはずであり、適切な評価についてちょうど一巡したところであり見直すことをおすすめする。 ・放課後セミナー、南セミナー、朝補習、各種講座について、学校全体であり方について検討し見直し、魅力あるものにしてほしい。 ・先進校視察について、他校では2月の上旬より視察地の選定を実施しているが、本校ではその取り組みができていない。管理職が出張のできる環境を整えるべきと考える。 ・先進校視察等での情報交換を行ったりすることで、より学力の向上に繋げていただきたい。 ・「生徒の学力として表われる教師の指導力（学力）」ということを肝に銘じ、授業力・作問力の向上についてなお一層の取組みをお願いしたい。 ・「探究学習」と「地域連携」によって、「学力向上」に関して、生徒や教師、学校がどのように変容したのか検証していただきたい。 ・55分授業は非常に有意義な取り組みだと思う。延長の5分は何をする時間なのか、先生方間で認識を一致させ、有効に活用していただきたい。 ・放課後セミナーの受講生の減少は周知の問題なのか、生徒のニーズと一致していないからなのかよく分からないが、学生が何を求めているのか聞き取りを行い、3年生の受験勉強により役立つセミナーになってほしいと思う。 ・情報に関しては文科省の方針等により今後重要性が増す可能性もある。各大学の動向を見ながら対応していただきたい。 ・可能かどうかは分からないが、入試問題の分析などについては予備校などとも連携してもよいのではないかと考えた。 ・大学でもそうであるが、WEB上での個別学習は生徒の自主性に任せるとあまり定着しない傾向にある。WEBでの学習内容を授業中での小テストの範囲にするなど、何らかの形で授業内の活動に結びつけると生徒の利用頻度も向上するのではないかと思った ・アドバンスクラスが1年目であるので、2年後の成果が期待される。ただ、成績不振で遅れた生徒達への放課後セミナーなどでの底上げに期待する。 ・それぞれの取組は充実している。普通科高校である以上、進学実績が中学生、保護者の評価となる。上位層の引き上げはもちろん、全体的な学力向上が求められている。南高スタイルのゴールは何かを
②難関校を目指す生徒への組織的な指導の充実 ・ハイレベル講座やチームによる指導の実施	■南セミナー（1、2年） ■放課後セミナー難関コース（3年） ■ハイレベル模試 ■探究コース（フロンティア科） ・文理混合で少人数指導クラス設置	・1学期末から南セミナーを実施していただいた。 ・放課後セミナーに加え、学年団で人選し、難関大対策個別指導も早期に開始している。 ・夏場の九大模試受験者数は例年に比べると少ない。 ・高い進路意識をもつ生徒を集団化し、上位層の育成や学力向上につながった。 ・難関大学受験に向け、自己肯定感を高められるような更なる取り組みが必要。	3. 7	3. 4	・学年が一体となって上位層対策にも力を入れている。 ・一定数の受験者は確保できているので、絶やさないようにしたい。 ・職員間の情報共有をさらに進めて、効果的な指導を全体で進めていく。	3. 6	3. 4	
③基礎学力定着指導の徹底 ・自主学習の定着指導と部活動との両立支援	■スタディーサポート ■Classi活用 ■デジタル採点システム ■文章読解力の育成	・国数英のスケジュールの確認につながっているのか。WEB上での個別学習も強力に案内していきたい。 ・連絡ツールのみ使用に終わらず、「学習トレーニング」利用について、随所で案内し、個別最適な学習に役立てていきたい。 ・クラス間の競争意識を高揚させながら全体が伸びるような使い方も呼びかけていきたい。 ・南模試（実力考査）はもとより、定期考査においても深い思考力を要する問題作成を教科代表者会を通じ強く求めていく。	3. 4		・学習習慣について、真剣に書くよう、促す。 ・学習記録を全職員で見守る雰囲気を醸成していきたい。 ・採点後すぐにクラス間比較が容易にできることと働き方改革の一助にもなっている。 ・早い段階からの作問、検討を呼びかけていく。	3. 4		

							確にした上で、その成果の検証と改善は毎年必要と考える。短期間に成果が出るわけでもなく、その積み重ねが学力向上につながる。引き続き今後に期待したい。 ・難関校への挑戦へつながる進路情報の提供を通して、また探究学習の延長線として、広い知見を求める姿勢や上昇志向・挑戦意欲をさらに向上させてほしい。 ・読解力を深め、文章を書くことは受験はもとよりあらゆる方面で力を発揮していく基礎となるので恒常的に醸成することが大切だと思う。	
2進路目標の達成 ①進路指導体制の充実 ・国公立大学総合型・学校推薦型選抜制度の積極的な活用	■各種模擬試験 ■小論文・面接指導 ■各種講座（放課後） ■学力検討会・進路判定会 ■朝補習 ■面談材料提供のための職員研修会	・1年生3クラスにハイレベル模試受験を必須とした。その生徒たちが来年度以降も高い志を持つ核となって欲しい。 ・全先生方、3年学年団の先生方の協力する姿勢には大変感謝している。 ・夏期特編期間を中心に7講座設定した。2学期も熊大薬学部や裁判所講演会など数多く設定していきたい。 ・自分の学年の現状を熟知している各学年独自の視点から充実した検討会ができている。定期的に足並み・方向性をそろえ、高見を目指していきたい。 ・学年によっては欠席が目立つ。Ⅱ期の講座受講率は普通科平均60%、F科平均90%となっている。 ・ベネッセオンライン講座、各種業者冊子を積極的に紹介・配布	3.6	・次年度も継続することで上位層を増やしていく。 ・4割という高い合格率につながった。 ・継続して生徒の進路意識の高揚につなげる。 ・学年主任を中心に各学年が見事にまとまっている。 ・冬場の欠席率がどうしても高くなる。 ・次年度も継続。	3.5	・しっかり取り組まれ、成果も出てきているように感じられる。引き続き、適切な取り組みや対応をお願いしたい。 ・高大連携、地域活動等、文科省の指定から継続して、さらに魅力あるものを創出し、生徒も成果をあげていることに敬意を表したい。ただ、生徒からして行事に追われていないか、教師からの振り返りを充実していただきたい。 ・放課後セミナー、南セミナー、朝補習、各種講座について、学校全体であり方について検討し見直し、魅力あるものにしてほしい。 ・国公立大学で3割、私立大学で5割の定員を学力試験以外で確保するという状況を踏まえ、このことに対応した進路指導体制の構築も望まれる。 ・外部の教育力を活用することは時には必要であるが、安易に外部に頼るのではなく、教員の指導力向上を図る取り組みも必要である。 ・「探究学習」「地域連携」によって、「進路指導」に関して、生徒や教師、学校がどのように変容したのか検証していただきたい。 ・冬場の朝補習の欠席率が高いということであるが、これは単純に寒いからということか。どのくらいの頻度で実施されているの分からないが、たとえば三年生の場合、朝補習→授業→放課後セミナーと続くとかかなりきついように思う。それぞれの志望校に特化した個人学習も必要だと思うので、三年生の場合は朝補習の出席率の低さはそれほど問題視しないでもよいのではないかと個人的には思った。 ・探究活動に関しては大学の推薦入試などでも積極的に評価しているし、また大学に入ってからでも貴学で取り組んでいる活動の延長のような授業を授業で行う機会も増えている。生徒が主体的に活動し、考える力を引き続き伸ばしていただきたい。 ・夢ナビは大学教員側もけっこう準備が大変なので、ぜひライブまで積極的に参加していただきたい。 ・出前講座などで、本学が大変お世話になっているが、出前講座では、本学を志望校に考えているかどうかで生徒の集中力が全然違うと感じる。なかなか難しいかもしれないが、宮崎県内外の大学からも教員を呼んで、生徒たちのニーズにできるだけ幅広く応えるようにすればより彼らの進路選択において有意義なイベントになるのではないかと考えた。 ・朝補習が選択制となったが、出来るだけ多くの科目を、出来るだけ多くの生徒が選択できるよう、家庭からの問いかけも必要かと思う。 ・探究活動、鵬ドリカム講座も順調なようで、外部との連携をとり、出前講座・体験等により出来るだけ早いうちから進路目標が持てるよう、外		
②外部の教育力の活用 ・産学官連携による探究活動等の推進	■高大連携 ■出前講座・体験講座 ■進路講演会 ■探究活動 ■外部発信・PR ■各種発表会・コンクール ・校内発表会 ■卒業生による進学講話 ■オープンキャンパス、外部講座への参加	・教師みらいセミナー、ふるさと宮崎創成コース、宮崎大学・宮崎公立大学出前講座など地元大学には多大なるご協力を頂いている。 ・鵬ドリカム講座もコロナ禍を明け、2年連続で基調講演を実施できている。また、全30講座もすべて本校卒業生から人選させてもらっている。同窓会の協力には非常に感謝している。 ・各学年講師（ベネッセ、立命館大学）を呼び、時宜にあった講演会を行ってもらっている。 ・宮崎大学、宮崎公立大学、宮崎県立看護大学、宮崎産業経営大学、宮崎国際大学、南九州大学、第一薬科大学様から1、2年生の探究活動のご指導をいただいた。有識者からのご指導をいただき、視野の広い活動につながった。 ・進路的な行事はほとんどHP上にアップし、本校の魅力紹介に努めている。 ・1、2年ともに校内の探究発表会において多くの有識者よりご意見をいただき、自分たちのキャリア形成に生かすことができた。また、外部発表会へも積極的に参加する生徒が増えた。また、今年度は普通科の生徒の活躍も見られた（探究連携部会で詳説）。 ・3学期に「合格者の声を聞く会」を計画している。 ・事前登録の案内やポスター掲示を行い、1・2年次における参加を呼びかけている。夢ナビライブの参加率が非常に低い。	3.9	3.8	・恵まれた環境を生徒に自覚させ、伸張するよう促す。 ・人選について連携大学にも協力を求めることも検討する。 ・次年度も継続する。 ・本校だけでなく、大学側のメリットも考え今後も続けていけるよう再考する。 ・情報広報部の尽力のおかげである。 ・フロンティア科だけでなく、普通科の生徒も校外発表で成果が収めることができるように取り組みの改善を続けていく。 ・各種入試パターンとごとに人選していく。 ・普通科高校入学と同時に受験生としての当事者意識を根付かせたい。 ・教師のなり手不足解消にも貢献していく。 ・受講態度についても事前指導を行う。	3.9	3.7	
③特化した進路指導体制の確立 ・連携大学等への進学を目指す生徒の育成	■教師みらいセミナー、ひむか共創人材育成塾 ■宮崎大学・宮崎公立大学出前講座	・前者は全4回、後者は1回、本校を会場として実施させてもらっており、本校生は非常にありがたい環境下にある。 ・全12名の講師に来校いただき、1・2年生向けに非常に魅力的な講座を2時間連続で行ってもらった。高文祭公欠の時期と重ならないよう配慮していきたい。	3.8		3.8			

						部との連携が進むよう、期待する。 ・インスタ等のSNSでの発信等もあり、日頃の学修や探究活動、部活動など更なる発展をを期待する。 ・体制の充実は感じる事ができる。多様化する入学試験への対応を、働き方改革などを行いながら、対応している先生方には、敬意を表したい。依存ではなく活用して、生徒の目標達成に向けて引き続きご尽力いただきたい。 ・探究学習についてはこれまでのご尽力・積み重ねがより良い学習・取組につながってきている。課題を自分達で見つけ掘り下げていく力がついてきていると見受ける。産学官民連携による探究学習を継続、さらに促進してほしい。 ・探究学習の宮崎県内の取り組みを県外・全国規模でのかかわりや場（SDG s 関連の発表会等）を通して広がりつつなかりを持ち、質を深めていく方向をさらに志向できたらよいと思う。
3 豊かな人間性の醸成 ①安全・安心に配慮した教育活動の推進	■避難訓練 ■いのちを大切にする教育 ■いじめ・リクエスト相談 ■スクールカウンセラー、SSW ・希望生徒や保護者に対して月1回程度実施 ■生活支援員 ■施設設備の管理	・年度初めに避難経路の確認を行い、各学年と連携しながら避難訓練を実施できた。 ・避難経路の常時確保と安全確認のため、担当職員が協力して、日頃から避難経路の状況を確認することができている。 ・9月当初より図書部と連携し「ほっとできる」図書コーナーを設置した。 ・講話を企画（講師体調不良により延期）。 ・9/11みなみのかぜ支援学校と交流。 ・6月12日より3週間かけてアンケート配信回収。いじめ「あり」-5名全員面談し経過観察中。リクエスト-10名（進路・勉強・友人関係が主）各担当者対応。 ・勤務と面談件数 SC... 3回、6件 SSW... 16回、11件 ・6/24、職員研修（SSW業務・事例紹介） ・SCの回数が少ない所をSSWが補う形で面談できており助かっている。 ・二名在籍、双方二年目で信頼関係ができています。支援する上での課題を学校全体で共有する点で十分できてない。 ・車椅子利用の生徒の校内移動には段差やスロープの広さ・傾きなど課題がある。 ・排泄や着替え、移動そのものにも時間がかかり支援員の負担が大きい。 ・相談室...相談室利用生徒が多い時期には空きがない状況だった。 ・相談室に生徒がいる場合、SC・SSWの面談は生物講義室等を借用し実施。 ・環境保健部...校内の照明の点灯チェックを行い、点灯していない場所については、事務の協力をいただいて対応することができた。	3.6	・LHR以外の時間帯を想定した訓練を行い、生徒の動きを確認してより安全な避難行動が取れるようにしたい。 ・いのちの教育は夏休み前に実施する。 ・支援学校との交流の意義を理解してもらえよう情報発信に努める。 ・6月、9月実施、調査期間を1週間とし、いじめ早期発見・解決につなげる。 ・SC、SSWの周知、面談室の環境整備に努める。 ・面談、報告・FBが余裕を持って行えるよう勤務態勢の改善に努める。 ・要支援生徒同様に生活支援員の困り感の把握に努める。 ・特別支援教育コーディネーターの資質向上、支援計画の早期作成、共有に努める。 ・相談室利用者の早期教室復帰もしくは進路変更を支援する。遠隔授業のルールを整備する。	3.6	・避難ではなく、防災的な観点からの、学校全体の取り組みが望まれる。 ・災害時の食料備蓄を来年度から行うとのことだったので、今後スムーズに回ることを期待している。 ・いのちを大切にする教育といじめ対策、カウンセリングの充実は関連しあっている。一人ひとりを大切にする人権教育の基本に触れながら行っていただけたらと思う。 ・「南高スタイル」の1つとして、「日焼けした秀才」「色黒の受験生」ということを掲げて取り組んでいただきたい。 ・多様性の時代であり、一人として取り残さない教育ができるのが理想と思うので、今後検討をお願いしたい。 ・生徒に寄りそう体制が整っているように感じる。学力向上だけでなく、人間的にも素晴らしい人材を輩出できるよう、引き続き、ご指導をいただきたい。 ・ハード面、ソフト面両方においてケアが行き届いていると思った。不登校の生徒なども増えていると思われるが、今後も生徒全員にとって学校が過ごしやすい場所になることを期待している。 ・コロナ以降で心を痛める生徒も多くいると思うので、ケアできる体制作りの推進が出来ればと思う。 ・探究活動に関して先生方も生徒も非常に積極的に取り組んでいて、素晴らしいと思った。 ・探究活動を進路選択の一助にされるのであれば、「地域活性や地域の魅力」だけではなく、宮崎の外の世界のことについて探求する活動についても幅を広げていただきたいと思った。県外の大学を志望する学生の探究活動に対するモチベーションも向上するのではないかな。 ・探究活動のゴールイメージを資質・能力で示すことが望まれる。 ・「探究学習」「地域連携」によって、「豊かな人間性の醸成」に関して、生徒や教師、学校がどのように変容したのか検証していただきたい。 ・部活動等の輝かしい活動を新聞、テレビで拝見し、生徒のみなさんのがんばりと共に先生方の指導の結晶として誇らしい。益々頑張っていたきたい。 ・最近、部活動についての議論をネットや新聞などでよく見かけるが、生徒の学習のためだけでなく、先生方の負担
②キャリア教育等による人間教育の推進 ・郷土愛に繋がる課題研究等への積極的な取組推進	■鵬ドリカム講座 ■探究活動	・基調講演復活2年目で完全にコロナ禍以前に戻った。講師も若手卒業生が自ら名乗り出てくるなど、同窓会のご協力姿勢がこれほど強い学校は少ないのではないかな。 ・今年度も地域活性や地域の魅力について探究する生徒が多数おり、地域の魅力を外部に発信する活動を実施していた。 ・1年次のトリコンにおいてのテーマのほとんどを宮崎の課題を設定し、生徒知らない宮崎の魅力を知る取り組みを実施した。	3.9	・講座受講を機に進路選択をする生徒もいるので開講講座は常に改善を図っていく。 ・本県を地域を県外の人がどのような視点で捉えているかだけでなく、国外の人から見た本県の印象についても学べる機会を設定していく。	3.9	・探究活動に関して先生方も生徒も非常に積極的に取り組んでいて、素晴らしいと思った。 ・探究活動を進路選択の一助にされるのであれば、「地域活性や地域の魅力」だけではなく、宮崎の外の世界のことについて探求する活動についても幅を広げていただきたいと思った。県外の大学を志望する学生の探究活動に対するモチベーションも向上するのではないかな。 ・探究活動のゴールイメージを資質・能力で示すことが望まれる。 ・「探究学習」「地域連携」によって、「豊かな人間性の醸成」に関して、生徒や教師、学校がどのように変容したのか検証していただきたい。 ・部活動等の輝かしい活動を新聞、テレビで拝見し、生徒のみなさんのがんばりと共に先生方の指導の結晶として誇らしい。益々頑張っていたきたい。 ・最近、部活動についての議論をネットや新聞などでよく見かけるが、生徒の学習のためだけでなく、先生方の負担
③生徒の主体性を重視した取組の推進 ・生徒会活動の更なる活性化 ・部活動の更なる活性化	■1年生の初期指導（FORM） ①学習・生活に関するオリエンテーションの実施 ■部活動 ■校則見直し ■ジェンダーレスの制服導入の検討	・①については各授業の中で行ってもらった。1年次における予習・授業・復習の「黄金スタイル」の確立が必須。 ・テニスコートやグラウンドの整備に課題あり（整地・締め固め等）。 ・キャプテン会による自主的な下校指導等が行われた。 ・進路内規及び生徒指導関係内規については毎年、見直し・改善を重ね続けている。 ・ヘルメット着用の校則化が生徒総会での共通理解を経て、2学期からスタートした。 ・生徒会及び各種委員会主導の自主活動の一層の支援。 ・6～7月に制服検討委員会を5回程度開催。令和8年度入学生よりジェンダーレス制服を導入することと決定した。		・学習記録への登録、見守りを強く呼びかけていく。 ・部活動生集会において学習との両立の優れた実践例の共有 ・下校指導の継続実施 ・現行規定の遵守へ向けた啓発活動の充実 ・学校生活改善に向けた生徒会主導の企画・提案の一層の充実 ・自転車ヘルメットの完全着用に向けた手立て ・令和8年4月入学生からの新制服着用に向けた諸準備（広報活動も含む）		

		・11月末に業者選定を行い、1～3月に4回程度制服検討委員会を開催し、最終的なデザイン等の決定を行った。 ■主権者教育 ①法に関する学習（統一LHR） ②模擬投票 ■生徒委員会活動 ■ボランティア活動	・第50回衆議院議員総選挙に合わせて、2年生を対象に、生徒自身による運営のもと模擬投票をおこない、投票率は78％に達した。 ・生徒会及び各種委員会主導の自主活動の一層の支援（四校定期戦やクラスマッチの企画・運営の今年度の反省と次年度の改善点の検討、自転車ヘルメット着用に向けての啓発活動、現在の生徒心得における運用面の確認や改善に向けた検討など） ・中高連携の一環として赤江中・青少協とコラボし、2年生を中心に参加。	3. 8		を着実に実施する。 ・第27回参議院議員通常選挙、宮崎市長選挙を見据え、主権者学習を継続的に深化させる。 ・生徒会と各種委員会及び実行委員会の更なる連携を通した新企画の早期立案とその実現に向けた計画的な取り組み。 ・地域と交流することの喜びを体感できた。連携を継続していく。	3. 7	軽減のためにも時代に則した部活動の在り方を探っていただきたいと思う。 ・校則の見直し、ジェンダーレスの制服の導入など、時代に合った対応を実践されていて素晴らしいと思う。生徒会などの活動も生徒が主体的に活動しているのが窺える。 ・校則については生徒主導で主体的に古い内規を見直し・改善策を生み出す話し合いを進めてほしい。 ・本来のボランティア活動の目的ではないが、大学入試でのアピールのためにも、今後もボランティアの機会は積極的に与えてほしいと思う。 ・キャリア教育では、探究学習含め、郷土愛の醸成を期待し、宮崎に残りたいと言うよりは、様々な視点で宮崎に貢献できる人材を育成して欲しい。 ・（ここに出ている事例以外で）ボランティア活動を行っている・行おうとしている南高生について県民から良いフィードバックをもらった。様々な形で自分たちにできるボランティア活動をしようとする精神が培われていることは喜ばしい。
4 特色・魅力ある学びの提供 ○全校生徒が自信と誇りを胸に語れる本校の特徴の充実・発展 〈キーワード〉 ①普通科・フロンティア科 ②55分授業 ③文武両道 ④歴史と伝統（創立63周年） ⑤進路実現 ⑥教育の情報化 ⑦PTA・鵬同窓会 ⑧生徒が主役 ⑨都市型コミュニティ・スクール ⑩地域の学校 ⑪探究的な学び ⑫高大等連携 ⑬DXハイスクール事業	■本校の特色ある学びの発信 ・高校説明会 ・授業公開 ・オープンスクール ・学校パンフレット ・学校ホームページ ■PTA活動の活性化 ・学校行事や環境整備への協力 ・広報活動 ■Classiの活用拡大 ・クラウド型教育プラットフォーム ・各部、学年、教科で多様な活用 ■三菱みらい育成財団プログラム ・コムスク活動の原資 ■地域連携・大学連携 ■図書館利用活性化 ・利用しやすい図書館に向けた取組 ・生徒アンケート実施 ・進路、探究関係図書の実 ■ICT活用教育 ■一人一台端末 ・探究活動での活用効果大 ・校内ガイドライン、ルールの検討 ・生徒の情報モラルの育成 ■教員志望生徒への支援体制	。夏のオープンスクール参加者は662名。（R5：729名、R4：672名）。 ・秋のオープンスクールはR5から実施。今年度は部活動体験も含めた。 ・授業公開は6月と11月に実施。 ・管理職が中学校で高校説明会、運営委員の先生が塾を訪問した。 ・学校パンフレットは6500部作成。 ・HPから随時南高校の様子が分かるようにする。 ・SNSも利用した発信 ・鵬合格うどんや奉仕活動などを通して学校と一体になって生徒の活動を後押しする。 ・広報誌の作成 ・スマホにもアプリをダウンロードするよう強く求めている。隙間時間を使った個別最適な学習には非常に適している。 ・今年度も潤沢な資金があり、スムーズな活動につながった。 ・地域連携部会資料で報告するが、各部署で多くの連携が行われている。 ・本校職員が選定した南の100冊の展示や紹介を実施した。 ・図書館通信を毎月発行し、新書の紹介や図書館のイベントを発信し、生徒が図書館に来館しやすい雰囲気を作った。 ・新書の選定を生徒が実施、生徒が興味を持ちそうな本を増やした。 ・職業につながるコーナーや総合型推薦、学校推薦につながるコーナーを設置した。 ・授業力向上研修のテーマ（の一つ）に設定。 ・SNS上のトラブルなどへの注意喚起の継続。 ・教師みらいセミナー、宮崎県教員ガイダンス、高校生版スクールトライアル、宮崎大学教育学部出前講座など、教師不足解消に努めている。	3. 7	3. 7	・本校の取り組みや特徴を中学生や保護者、中学校教師や塾に引き続き発信していくとともに、本校生徒にとって魅力のある学校づくりを目指していく。 ・秋のオープンスクールも軌道に乗った。更に充実したプログラムを目指したい。 ・更にSNSを活用した魅力発信をする。 ・保護者の負担とならないような活動を目指す。 ・常にチェックする生徒数が少ないので、継続的に呼びかけていく。 ・次年度以降の活動資金が確立されていない。今後どのように調達していくか考えなければならぬ。 ・社会に開かれた教育課程を実現したい。 ・南の100冊の職員の入力数の増加。先生方を通して本に興味を持つ生徒が増加しているので、南の100冊の入力に協力いただける先生増加に努めたい。 各教科でICTを利活用した授業は概ね展開できている。更なる研鑽を積みたい。 ・外部講師を招聘するなどした情報モラル教育（SNSの適切な利用方法の確認等）を実施する。 ・教師希望が多いので対応に努める。	3. 7	3. 7	・素晴らしい取り組みをされ成果をあげておられると感じる。 ・制服は、中学生へのアピールにつながるので、発表段階からPRの仕方に工夫して宣伝材料として活用して頂きたい。 ・「特色ある学校づくり」の特色とは、他校がやっていない目新しいことをやるというのではなく、「学校としてやるべきことをしっかりやる」という視点に立ってのもであって欲しい。「学校の役割」「教師の役割」を十分に果たしていることを特色にしていきたい。 ・「探究学習」「地域連携」によって、「特色・魅力ある学びの提供」に関して、生徒や教師、学校がどのように変容したのか検証していただきたい。 ・大学では、オープンキャンパス等のイベントを頻繁に実施しすぎて教職員の大きな負担になっているところもある。これ以上実施できる活動はあまりないように思えるので、イベント等をさらに増やして先生方の負担にならないようにしていただきたいと思う。 ・本の紹介については大学に協力してもらってもよいのではないかと思った。それぞれの学問の入門書のようなものを大学教員が推薦すれば、進路選択にもつながるのではないか。 ・南高らしさを知ってもらうためのオープンスクールの充実が進んでいるものと思われる。是非より良き人材を、数多く確保できることを期待している。 ・Classiの活用拡大が進みにくいようですが、情報伝達には重要と思うので、重要な伝達手段であることを継続的に呼びかけて頂きたいと思う。 ・コミュニティースクールも文科省表彰、PTA広報誌も昨年の九州PTA大会で表彰、今年の100号は宮日新聞の高校のPTA新聞の枠でもつい最近最優秀賞、昨年10月の宮崎県PTA大会での研修内容が評価され、今年の九州PTA大会で表彰されたりと、南高の特色・魅力が発信できていると思う。 PTAの活動も子供たちのためにと考えると負担ではないと思うので、この後も引き続き活動できればと思う。 ・様々な取り組みが実施され

								ており、新聞やテレビ等で南高のことが取り上げられる機会はとても多いと感じる。だからこそ、本校の魅力とは何か、内部からも、外部からも、明らかな何か必要があると感じているし、それが本校を志望する中学生のニーズを捉えているかを考えないといけないと思う。 ・学校は特にSNSによる発信等積極的に活用し情報伝達・広報活動を活発化しており、またPTAや同窓会も広報活動に努め、南高の魅力や学校関連の情報が以前に増してよく伝えられた。 ・地域や大学との連携にも力を入れておられるがさらに進めてほしい。 ・対話型の授業をさらに実行してほしい。
--	--	--	--	--	--	--	--	--